

瀬戸内市の旅

Journey of Setouchi City

瀬戸内発見伝

巻之百四十六

文化財を支えるための文化財

瀬戸内市には数多くの文化財が伝えられており、市の豊かな歴史と文化を物語るものとなっています。

それらの文化財を継承・修理するためには、古来の伝統的な方法や技術、素材を用いることが必要不可欠ですが、

社会の変化により、原材料の生産者や道具の製作者が減少し、製造や修理を行える技術や技能をもつ人も減少しています。このため、原材料の供給や修理が困難となり、文化財の保存継承が危ぶまれる状況となっています。

選定保存技術

文化財の保存のために欠くことのできない伝統的な技術

または技能で、保存の措置を講ずる必要があるものを、文部科学大臣は「選定保存技術」として選定し、その保持者および保存団体を認定しています。

令和4年2月1日現在で82件の技術・技能が選定されています。

例えば、雅楽弦楽器（和琴・箏）の製作修理技術、左官（日本壁・古式京壁）技術、歌舞伎に使用される鬘や衣装・小道具などの製作技術、表具用手漉き和紙製作技術など、普段身近に見たり、使用したりしているものが数多くあると思います。

また、檜皮採取技術と檜皮葺技術、さらに社寺など建造物の修理技術というように、前の技術がないと次の工程が

行えなくなるような連鎖しているものもあります。

伝統工芸木炭生産技術保存会

選定保存技術保存団体（木炭製造）に認定されている合同会社伝統工芸木炭生産技術保存会は、瀬戸内市に事務所



天井まで隙間なく原木が詰められた炭焼き窯

を、美咲町に生産場所を置き、たたら製鉄や日本刀製作の際、燃料として用いられる木炭、漆器や金属器などの研磨に用いられる木炭などの製造と木炭生産技術者の養成を行っています。

また、原木となる赤松の植林も手掛け、安定した原材料の確保を目指しています。

木炭製造（松炭）

松炭の製造工程は、はじめに原木の赤松を窯詰しやすい長さ、使用しやすい炭の太さになるよう割木にします。

炭焼き窯には、技術者の手により割木が隙間なくびっしりと詰められます。隙間があると燃焼が進み過ぎて灰になり、炭化しないからです。窯詰される割木は真つすぐなものばかりではなく、節があるものやねじ曲がったものもあり、それらを隙間なく詰めるには経験と技術が必要です。窯詰を終えると火を入れ、蒸し焼き状態にします。割木の乾燥具合によって蒸し焼き

をする時間の調整をしなければならず、ここでも経験と技術が必要となります。

蒸し焼き後、火入れ口を密閉し、そのまま窯が冷めるまで待ち、松炭を取り出します。完成した松炭は、炭化度、大きさなどで分けられ、袋詰めされ納入されます。瀬戸内市には刀鍛冶も多く、ここで生産された炭を使用して作刀している刀鍛冶もいます。



選別と袋詰めのため、一定の長さに切り揃えられる松炭

牛窓神社・亀山公園

牛窓海水浴場から牛窓神社へと向かう参道の中腹にある亀山公園には、瀬戸内海の多島美を一望できる展望台があります。

西は牛窓オリーブ園のある丘陵地帯、南には小豆島や前島を背景に、牛窓の町並みが眼下に広がります。東は播磨灘に臨み、海景を見渡すことができる絶景スポットです。

天気の良い日には、遠方東に淡路島、西に瀬戸大橋がみえることもあります。

4月中旬には、コバノミツバツツジが満開を迎え、より美しい眺めを楽しむことができます。このツツジは、紫がかつた鮮やかなピンクの花を枝全体につけ、展望台の周囲に約300株が群生しています。満開になると、展望台一帯が鮮やかなピンク色に染まり、空と海の青色と相まって見ごたえのある風景が広がります。

この時期ならではの絶景が楽しめる亀山公園で、春の訪れを感じてみませんか？



亀山公園からの眺め（小豆島・前島）



コバノミツバツツジ



展望台周辺の様子



亀山公園からの眺め（前島東部）



利用のご案内

- ▷所在地 牛窓町牛窓
- ※亀山公園へは、牛窓海水浴場から牛窓神社の鳥居をくぐって石段を上がってください。
- ※夜間の入山はご遠慮ください。

